

## 桃輸出の夢語る

JAさくらんぼひがしね 農事実行組合長全体研修

【さくらんぼひがしね】JAさくらんぼひがしねは1月29日、東根市の花の湯ホテルで、農事実行組合長全体研修会を開いた。JA役員を含め、約100人が出席した。

東根果樹研究会の武田拓さんが「私たちの桃を

海外へく想(おも)いを地域へ! 攻めの農業で目指せ地域活性化」と題し、事例を発表した。武田さんは、東根の桃をサクランボに次ぐ農業経営の柱にしようと強調。同市の晩生種収穫期が台湾の最需期であることや、検疫が厳しい

分、競争が少ないため有利販売が可能とし、桃の輸出を視野に考えていることを発表した。JA山形中央会農業農政部長兼地域・担い手サポートセンター長の大武義孝氏が、TPP・水田農業対策と集落営農法人について講演した。



事例発表を行う東根果樹研究会の武田さん